

令和3年2月26日



3月 釜小だよ

横浜市立釜利谷小学校

釜小Web <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamariya/>



この1年

校長 菊池 幸博

コロナで始まりコロナが続く令和2年度となりました。保護者、地域の皆様には様々な面で本年度も釜利谷小学校を支えていただき、心から感謝申し上げます。

令和元年度末から始まった学校休業は、令和2年6月には学校再開となり、新型コロナウイルス感染拡大も一旦は好転するかと思われましたが、その後第二波三波と感染が拡大し、ついに再び緊急事態宣言発令となってしまいました。1年以上に及ぶこのコロナ禍で医療関連従事者の皆様のご努力は計り知れないものがあります。また物流等、日常生活を支えていただいている様々な皆様にも感謝の念が絶えません。

令和2年度は、学校休業中ではあったものの、1日だけ登校の始業式、保護者1名限定参加という形の入学式からの幕開けでした。その後もしばらくは休業となり、学校HPや配付物等で、各種メッセージやお知らせ、あるいは学習プリント等を届けさせていただきました。常に正解はなく、試行錯誤しながら学校再開に向けての準備を進めました。その間も「緊急受け入れ」や「校庭開放」などの取り組みを行い、宣言明けを待ちました。

6月になり、学校再開となりましたが、分散登校等の制限の下、久々の学校に子どもたちの戸惑いはないか、初めて学校に来る新1年生を学校に一日も早く馴染ませるにはどうしたらよいか、4～6年生の宿泊体験学習はどうするのか、そもそも2か月のブランク期間を経て、学習内容をどのようにしたらよいか。運動会は、フェスティバルは、…目の前に直面する課題は山積みでした。

これまでに経験したことがないコロナ禍において、どのような学校運営をしていかなければならないか、迷いながら手探り状態でしたが、救われたのは子どもたちの笑顔にでした。

久々に学校で友達と再会したときの笑顔、先生や友達と一緒に活動できるといった笑顔、教室で過ごすだけでなく、校庭を思いっきり走ったときの笑顔、机に向かってプリントで学ぶのではなく、本物に触れながら新しいことを知ったり考えたりできたときの笑顔。みんなとともに、集い、協働し、悩み、取り組むことで得られる喜びの表情を見たときに、子どもたちのこの笑顔を曇らせないために、今できることを一つ一つしっかり丁寧に取り組んでいこうと、気持ちが落ち着きました。

何か特別なことができるわけはありません。ICTなど新しい技術は少しずつ覚えましたが、何が正解か、その答えは数年後になるかもしれません。先を見据えて、そこから導かれる「今すべきこと」を、学習においても学校生活においても着実に取り組んでいくことが、子どもたちの笑顔につながるはずです。そしてそのことが、この釜利谷小学校を支えてくださっている、保護者や地域の皆様への感謝の形だと考えています。